

紀宝町

議会だより

第 29 号

平成26年 3月1日 発行



相野谷の桜

議 会 日 誌

平成25年10月～12月

- | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---------------------------|--|
| 10月 | 2日 | 熊野川河口に橋を架ける会要望活動
(和歌山県庁・近畿地方整備局・中部地方整備局・国土交通省等) [3日まで] | 13日 | 熊野川改修促進期成同盟会要望 (大阪) | |
| | 4日 | 議会運営委員会
平成25年第4回臨時会
議会議員定数調査特別委員会
議会運営委員会 | 21日 | 総務産業常任委員会 | |
| | 7日 | 国道168号(五条・新宮間)整備促進協議会
総会 (大阪) | 22日 | 紀南病院組合臨時会 (御浜町) | |
| | 8日 | 東紀州農業共済事務組合定例会 (熊野市) | 24日 | 第6回紀宝町健康まつり | |
| 10日 | | 熊野川河口に橋を架ける会要望活動
(紀勢国道事務所・三重県庁) | 25日 | 議員研修 (岩手県釜石市、大槌町) [27日まで] | |
| 15日 | | 理事会並びに県議会議員に対する要望活動 (津市) | 12月 | 2日 | 環境保全対策特別委員会 |
| 20日 | | 港フェスティバル | | 4日 | 全員協議会 |
| 29日 | | 暴力追放南牟婁郡町民会議・理事会及び総会 | | 6日 | 南牟婁郡交通安全対策協議会 (御浜町) |
| 31日 | | 紀宝町戦没者慰霊祭
平成25年第5回臨時会 | | 9日 | 三重県紀宝町・石川県中能登町姉妹提携調印式
(紀宝町) |
| 11月 | 7日 | 平成25年第2回三重県後期高齢者医療広域
連合議会定例会 (津市) | | | 平成25年度第2回紀宝町交通安全対策協議会 |
| | 8日 | 紀南環境衛生施設事務組合臨時会 (新宮市) | 10日 | | 議会運営委員会 |
| | 11日 | 県関係部長等との意見交換会 (津市) | 12日 | | 第8回紀宝町老人福祉大会 |
| | 13日 | 第57回町村議会議長会全国大会 (東京) | 13日 | | 議会議員定数調査特別委員会 |
| | | | 15日 | | 高岡防災センター・高岡班消防車庫竣工式 |
| | | | 17日 | | 第4回定例会・第1日目 |
| | | | 18日 | | 第4回定例会・第2日目
議会議員定数調査特別委員会 |
| | | | 19日 | | 第4回定例会・第3日目 |
| | | | 22日 | | 紀南剣道大会 (紀宝町) |
| | | | 26日 | | 一般国道42号紀宝バイパス完成に伴う植樹祭
紀南介護保険広域連合議会定例会 (熊野市) |

12月定例会 一般質問

(要約)

町 営 住 宅



原 章三議員

- ・町営住宅建設について
- ・高校卒業までの医療費の無料化について
- ・国保値上げ再検討について

他

平成25年第4回紀宝町議会定例会は12月17日に開会しました。第1日目は、初めに、議長報告と各委員会委員長報告があり、次いで、町長から、第3回定例会以降の町行政各般にわたる報告がありました。その後、一般質問が行われ、第2日目の18日にわたり7人の議員が、質問に立ち、諸課題について、当局の取り組みと考え方を質しました。引き続き、議案審議に入り、公平委員会委員の選任、条例の一部改正6件、辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更、町道路線の認定、高岡防災センター条例の制定を原案通り可決しました。

第3日目の19日には、平成25年度一般会計補正予算並びに5つの特別会計補正予算、人権擁護委員の推薦についての答申書提出、議会議員の定数を定める条例の一部改正、意見書1件を原案通り可決し閉会しました。

議員

町は全員協議会で旧井田保育所跡地4区画の宅地分譲案を提案しました。しかし同地は海拔10mと決して安全な場所でないという危惧されています。また経済の落ち込みから脱していない中、若者の雇用、賃上げも伸び悩んでいるのが現実です。このような状況で若い人が安心して子育てができる環境を作る必要があるのではないかと。

町長

行政が町営住宅を建設することについては、民間業者の事業を圧迫、また維持管理についても厳しい財政

状況では難しいと思っております。今後、町営住宅建設にこだわらず幅広く検討していきたい。

議員

民間活力と言われましたが、今日大きな問題となっているのは耐震構造への建て替えです。町内アパートでどれだけできるのか。そういう意味でも町営住宅の建設を要望します。

高校卒業までの医療費の無料化を

議員

平成25年4月から実施した中学生の無料化について、

保護者から歯科医にかかる場合、大変喜ばれています。今後、医療費無料化を高校生までおこなっていただきたい。

町長

高校生までの医療費の無料化については、財政的に検討して、告示までには前向きな方たちで結論を出して進めていきたいと思っています。

国保値上げ再検討

議員

紀宝町における国保の状況は23335世帯、4034人(2010年度)で、内、

資格証明書発行者19名、短期保険証発行は一月から六月の合計が216名となっている。滞納状況は、235世帯、約1800万円、1割の方が滞納されています。このことは所得の伸び悩み、逆に下がっているのが原因ではないか。このようななかで今後も値上げを続けていくのか。

町長

紀宝町の場合、県下でも下から15番目と非常に安く運営している。リストラ等でも軽減措置をとっている。他の自治体のように一気に10%、15%上げるのは厳しいので少しずつでも負担をお願いしたいと思っています。

議員

現在でも払えない状況のなかで29年度県一本化になると大幅な値上げが予測されます。国保だけではなく介護保険料もそうです。行政としてきちんとした救済措置をとるべきだ。そのためには、財政的に貯め込んでいる他の基金等を活用しておこなっていただきたい。

― 農 業 問 題

議員

安倍政権のTPP交渉参加、戸別所得補償の削減、廃止など農業をめぐる状況は深刻になっている。町内でも2010年度コメの生産販売実績300万円以下の農家が84%になっている。まさにコメ作って飯が食えない状況だ。町独自でも良いから方法を検討して頂きたい。

町長

浅里地区をモデルとした飛雪米のブランド化で、少しでも単価の高い販売に繋げていけるよう取り組みを行っている。今後、相野谷川流域、神内、井田、鶴殿といった紀宝町産米がブランド化されるように努めてまいりたいと思っています。

― 特別養護老人ホームを安心安全な場所に

議員

現在、町内には宝寿園、亀楽苑の2カ所の特別養護老人ホームがありますが2

カ所とも決して安心、安全な場所に位置しておらず、将来予測される南海トラフ地震に際して、安全な高台に新たに作るべきではないか。

町長

第5期の介護保険事業計画では、熊野市内の社会福祉法人が元飛鳥小学校に70床の特別養護老人ホームの建設を予定しているときいています。紀南介護保険広域連合の次期計画は、27年から29年度に示されますが、地域として知恵と力を出し合って努力してまいりたいと思っています。

― 高岡向清水団地の今後の方向性

議員

災害発生から2年以上経過し、地域住民との合意が得られないということですが、地域住民の納得の得られるような対策を国交省に申し物申すべきではないか。

町長

復旧に向けての骨子案については、お示しさせていただいているところですが、費用的には、国の予算をい

ただかないと問題を解決していくのが非常に困難な状況です。できるだけ早く、あらたな対策について提案できるよう頑張ってくださいと思っています。

― 自主防関係者の保険制度

議員

自主防関係者、あるいはそれに係る人たちの訓練時、避難時、災害時に際し、死亡、負傷等の保険制度はどうなっていますか。

総務担当理事

自主防活動における保険制度は、訓練時においては防火防災訓練災害補償等共済制度があります。災害時につきましては自主防災組織の構成員等が人的救助活動等を行った際、死亡、負傷などにより消防団員等公務災害補償共済基金が適用される場合があります。町から避難所管理、運営などを依頼したときは、三重県町村会総合賠償補償保険が適用となるものと思われま

長等の従事命令が必要であります。独自判断では適用されないとのこと。

― 熊野川濁水

議員

世界遺産でもある熊野川の濁水は、災害以降、特にひどくなっている。このままでは、町営水道、生態系にも深刻な問題をおこしかねない。電源開発に対しては補償を求め行政訴訟等も起こしていく、そういう構えであったって頂きたい。

環境衛生課長

濁水により薬品関係の費用が高んでおるところです。電源開発に対しては、濁水による住民生活への影響を真剣に考えていただき、対策を講じるよう要望しております。

政策担当理事

補償金については、新宮市の水道事業と連携をとってきびしくあたっていきたく考えています。



熊野川



西村 喜久男議員

- ・東日本大震災から学ぶべきことについて
- ・道徳教育について
- ・民生委員・児童委員について

東日本大震災から学ぶべきこと

議員

誰もがどこで、震災に遭うかわかりません。地域による津波に対する温度差をなくす取り組みは、どの様にお考えですか。

総務担当理事

本町におきましても、町民皆様の津波に対する温度差につきましても、地理的、地形的な事情により、存在するものと思われまます。地域の温度差をなくすことは、容易なことではございませんが、町と

いたしまして、12月21日に開催の、防災フォーラム、また各種の防災講演会、町が主催する防災訓練、広報紙、チラシ、そして自主防災組織の皆様様の活動を通じて、津波の際には、より早く、より高く、より遠く避難するように周知してまいりますので、ご支援と、ご協力をお願い申し上げます。

議員

連絡や確認待ちのため校舎で待機していた事務員さんが被害にあわれた事の教訓から、保育中や、就学中に津波注意報、津波警報が発表されても保護者の方は迎えには来ない、迎えに来られても園児、児童をすぐに引き渡さず、津波注意報、警報が解除されるまで一緒に避難していることの取り決めする等の取り組みについてどのようにお考えですか。

福祉課長

日頃から保育中の園児の引き渡し方法や災害があった時の避難場所等、いざと言う時の対応を保護者の方に対し、訓練を通じ、もしくは文書などで周知しております。ご指摘の通り、安全が確認できた

時点で保護者に引き渡しを行うよう徹底しているところで

教育課長

幼稚園、各小中学校におきましては、東日本大震災以降、まず児童生徒の高い場所へ避難させることを最優先に取り組みを進めております。保護者への児童生徒の引き渡しについては、現在進めております防災教育を推進していく中で、幼稚園、各小中学校の地域性を考慮しながら一定の方向性を検討していきたいと考えております。

議員

職員の多くの方が被害に遭われ、亡くなられた大槌町で、職員の方から、実情をお聞きすることができました。発災時は気持がたかぶっている異常な状態で多量な役所業務を一生懸命こなしていたのですが、大きなストレスで心の病になられ自死された方、退職された方がおられたそうです。このような発災時の多量な役所業務軽減のために支援の受け入れ体制について、職員の心のケアについてどのようにお考えですか。

総務担当理事

一昨年の台風12号災害でも、被災後の各種の災害対応業務におきましては、専門業務への国・県専門職員の支援、あるいは、各種業務への県・市町一般事務職員の支援をいただいております。これらは、特定の業務における応援協定や業務全般的な広い分野での応援協定などに基づいております。また、職員の命、健康について、聞かせていただいた貴重なお話を教訓にさせていただき、復旧、復興を担う、貴重な職員の健康管理をできる限り行ってまいりたいと考えておりますので、今後ご指導をお願いします。

町長

南海トラフを中心とした地震、津波の発生が危惧されておりますので、今やらなきゃならない事として、防災避難ビルを建設しながら、行政を推進していく上で一番基本となる住民基本台帳、その機器類、防災機器類の整備をし、そして近隣の皆様方、議員の皆様方、職員の命を取り留めることが、まず一番大事だと思っております。

道徳教育

議員

町として必要性をどのようにお考えですか。

教育長

教育委員会としまして、学校教育振興ビジョンの基本理念、基本方針にも掲げていますように、道徳教育の必要性を強く訴えているところで

議員

地元の古畑種基博士や二宮金次郎など偉人から学ぶ取り組みについてどうお考えですか。

教育長

現在学校におきまして、特別時間を活用しながら地域学習の中で、文化財等を含めながら、学んでいるところですが、今後、偉人の方からも教えを請う、そういう事が大変必要と認識しております。

民生委員・児童委員

議員

民生委員・児童委員の人員等の現状はどの様になってい

ますか。

福祉課長

今年は一斉改選の年にあたりまして、平成25年12月1日より民生委員・児童委員35名で、主任児童委員3名の計38名、定員より民生委員・児童委員3名少ない状況です。

議員

他市町で挙げられている課題の中に、新任の民生委員・児童委員の方について、活動上の孤独感や地域の人の人間関係づくりに苦慮しているケースも見受けられるようです。活動しやすい環境づくりを進めていくために、経費面の支援拡充も必要ではないかとの報告もあります。民生委員・児童委員の活動に対してのサポート体制はどの様になつておりますか。

福祉課長

本町においても3名の欠員となっており、後任が決まるまでは、他の民生委員の方にご協力をお願いしていきたいと思っております。今後のサポート体制についてですが、民生委員・児童委員経験者OBの方に補佐的な役割や活動支援を担っていただけないか、また、現在地域で活躍されておりますか。

す、例えば、高齢者見守り隊や、てまり会などボランティア活動との連携、自主防災組織との連携など、活動が円滑に出来やすいような体制を整えていきたいと考えております。



庄司 健 議員

- ・熊野川の濁水対策について
- ・産業振興について
- ・みえ森と緑の県民税について

議員

高岡地区防災センターが竣工し、地区の皆さんもひと安心されたと思えます。ここへの避難道をお願いします。今後とも取り組みをお願いします。

熊野川の濁水対策

議員

最近の熊野川の濁水は酷い。平成23年の水害以来濁度の変化はどうですか。

環境衛生課長

平成22年平均7度、23年から25年11月まで46・6度と5倍以上の上昇です。

議員

このことで水道の浄化経費はどの位掛かっていますか。

環境衛生課長

薬品の注入量が約1・23倍ろ過膜10基、1基約1千万で交換頻度も早くなるので電源開発に要望を出しています。

議員

ダム建設から50年が経過し、この間貯水、放流方法の改善などで一時は、昔に近い青いみどりの水になりました。しかし水質は悪くアユ、ウナギなどの生息数は比べるべくも有りません。今後の濁度改善の可能性について説明を受けておりますか。

企画調整課長

10月の台風の影響でダム湖の清水層が消滅しましたが、上流から徐々に濁度が下がっている状況です。しかし、一度大雨が降ると崩壊箇所から土砂が流入するので、国県へも要望を行います。

議員

熊野川流域市町村とも連携結束し、強く電源開発に要望してまいりたいと考えています。

議員

この濁水が熊野川の内水面漁業、沿岸漁業の漁獲量にどのような影響を与えていますか。

産業建設課長

三重熊野川、熊野川鶴殿の2漁協組合の組合長さんにお話しを伺ったところ、目に見えて漁獲量が減少しているとの感覚を持たれているとのことでした。外海が漁場である紀南漁協組合では、23年9月以降減少しておりますが、濁水が原因であるかは判断できていない状況であると伺っております。

議員

熊野川への観光客も濁つた川に失望され、川舟の安全面でも懸念が有ります。

濁水のデメリットをどのように電源開発に伝えていただきますか。

町長

10度でも濁っているのに50度、70度と泥川のように残念です。濁りによる生態系の破壊も大きな問題とされています。清流を取り戻すことも大事ですので、電源開発、国に対して強い思いをもって申し入れをしていきたいと思えます。

議員

台風災害の影響にせよダムにせき止め利用した水を、綺麗にして流す責務が電源開発にはあると思えますがいかがですか。

町長

河川の生態系を壊す部分については、必要性について考えていただけるようしっかりと物申して行きたいと思えます。

産業振興

議員

町の活力を維持するには、一人ひとりの元気が必要です。活性化のため、意欲ある住民の意見交換の場を設

けてはいかがですか。

企画調整課長

紀宝バイパス、自動車道などインフラ整備が進み、他の地域との交流人口増加や景気刺激も期待できます。そこで実際に携わる住民の方々の意見も必要と考えております。住民自らが企画、提案、実施する「紀宝町地域貢献促進事業」が有り、要件が合えば利用していただけます。地域活動のリーダーや担い手の住民参画により、地域に元気と活力を与え、産業を活性化させる仕組みづくりを検討していきたいと考えております。

議員

紀宝町は高齢化率30パーセント。若い人も多く、また定年後、時間、活力、気力のある人もおられます。この人たちの元気にし、多くの面で協力を受ければと思います。

町長

地域おこしの核になるのは人だと思えます。人づくりは大変大事で、地域の街づくりに向けて、いろいろな発想で積極的に進める皆様に、しっかり支援体制を思っております。

みえ森と緑の県民税

議員

平成26年度から「みえ森と緑の県民税」が課税され、町は基金を活用して森林整備事業等を行うことになると思います。

産業建設課長

超過課税相当分を基金とし、既存財源と区分し集落周辺の森林整備、遊歩道、登山コースの整備、木造施設の建築等森林にふれる場を提供したいと考えております。

議員

基金を利用して、歩道の整備はお願いしたい。台風以来山林が荒れ放題です。間伐採搬出の国、県の補助金に加え、町単独の補助金を設定できませんか。

産業建設課長

国の考え方に準じ計画、事業を進めますので、単独の制度は考えておりません。岐阜県恵那市の先進事例もありますので関係者の意見を聞きながら検討したいと考えています。

議員

国が進めている集約化だけでは、町の森林はカバーできない。かつては、農地であったところが山林化しており、少ない面積になっている。そこで町単独のものでできないかという提案です。

町長

林業の集約化には、国の施策としての森林を守る制度を利用しながら、補助金ではなくても、どう取り組めるか十分検討していきたいと思えます。

議員

町の元気には、収入が必要で。農業と林業を合わせ年間を通じて働ける仕掛けを検討していただきたい。

※その他、県条例制定に関して紀宝町の役割についての質問がありました。



榎本 健治 議員

- ・学力向上への取り組みについて
- ・土曜授業の復活に向けてについて
- ・港湾対策について

学力向上への取り組み

議員

全国学力学習状況調査の結果を受けて、紀宝町の調査結果を公表していただきました。あらためてこの公表に至った目的をどのように考えているのか、お伺いをいたします。

教育長

紀宝町内の子どもたちの学力を認識いただき、家庭学習も大事なことを保護者に認識いただいて、学校と保護者、教育委員会と連携を取りながら、町内の子どもの学力を向上

していきたい。そういう経緯と目的で今回公表に至ったわけです。

議員

紀宝町だけの正答率の公表ではなく、三重県の正答率の平均値など比べる指標がないと分かりにくいのではないかと。

教育長

来年度の公表につきまして、保護者の意見も参考にさせていただきます、町内の児童生徒の学力向上に繋げていくように図ってまいります。

議員

現在、県が進めている三重の学力向上県民運動に対して、紀宝町はどのように関わっているのか伺います。

教育長

町内の一つの特徴で、人口の割には特別支援学級に係わる児童生徒が大変多い。だから特別支援教育も充実させないと、本来の紀宝町の学力向上には向ってはいけません。

議員

それは特別支援の子たちが紀宝町の学力を下げているという認識にあるんでしょうか。特別支援が学力向上に支障をきたすとも取れる発言は

訂正するべきだ。

教育長

私の特別支援教育に係わる発言は、不適切であったとお詫びして訂正したいと思いません。真意は町内の子ども達の学力を向上していくことで、三重県の学力向上運動と歩調を合わせて頑張っていくたい。

議員

紀宝町だけが特化しているわけではなく、全国それぞれ条件は一緒であります。学力向上に向けて一層の取り組みをお願いします。

— 土曜授業の復活に向けて

議員

文科省の中間まとめで学校、家庭、地域の3者が連携し、役割分担をしながら、学校における授業、そして地域における多様な学習や体験活動の機会に取り組むことにより、土曜日の授業、そして土曜日の教育環境を豊かなものにする必要があると発表されました。設置者の判断により、これまで以上に土曜

授業に取り組みやすくすると共に、質の高い土曜授業の実施のために地域における学習やスポーツ、そして体験活動など、子ども達に、より豊で有意義な土曜日を実現することが背景にあります。平成26年度の概算要求で、地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等の構築事業で約16億円、来年度7千校のモデル校を募集し、コーディネートや地域の有識者などにより、土曜授業のプログラム体制を構築するとされています。来年度、募集があった際には、この全国で約7千校のモデル地区として、当町も是非、手を上げていただきたいと思えますが、教育長の見解をお伺いいたします。

教育長

文部科学省は、今年の3月に土曜授業に関する検討チームを立ち上げました。三重県教育委員会では、10月29日付で公立小中学校における、土曜日の授業案が市町と教育長会議のなかで、提示されています。県教委では、土曜日の有効活用で、教育課程として土曜授業を実施する、教育課程外として、土曜サポート

を実施するようになっております。3月ごろに具体的にできると思っています。十二分に土曜授業の内容を検討して、必要なものは事業を受けていきたいと考えております。

議員

是非、モデル校として手を上げていただいて、コーディネートを入れて、どういったふうにやっていくのか検討して、前向きに進めていっていただきたい。

— 港湾対策

議員

鵜殿港では、現在、外船が入港する際、座礁事故が発生していますが、担当課のほうでは、周知されているのでしょうか。お伺いたします。

産業建設課長

鵜殿港の状況でございですが、今年の台風18号、26号の高波により港内における土砂堆積が急激に進んでいるものと考えております。10月13日に占用岸壁へ着岸すべく入港してきました、原燃料運搬船2隻が港の入

口において着床したとの報告を受け、早期浚渫の要望もこのとき受けている状況です。

議員

船舶が月平均50隻ほど入港し鵜殿港を利用しています。そのなかで外国船はドRAFTと云って、船の底が安定するために長く作られております。超音波で水深を計ると約3・2mの水深で、今年に入って3回の座礁事故が発生しております。今後浚渫に向けて、予算的なことも必要になってくるわけですが、前回は平成20年度と、そして21年度に国の事業、そして県費、町費も入れて4億8千万で浚渫事業が進められております。浚渫については、早急に解決をしていただきたい。

町長

船舶が着床するということは、非常に残念に思っております。この鵜殿港については、これまでも何度かそういう状況が続いておりまして、埋塞しやすい港湾になっております。浚渫をしていただくように県等に

も働きかけをしていきたい。私どもとしては維持浚渫というかたちのなかで、港湾を管理していく事を基本にお願いをしてみたい。

議員

浚渫と合わせて、現在、先般の台風災害でも、東防波堤の方が相当な被害を受けています。この防波堤のケーソンが天端まで砂利で埋塞している状況で、合わせて対策を進めていただきたいと思えます。いずれにしても、船底が海底につかないように、しっかりと水深を確保していただけるようお願いします。

※榎本議員の一般質問については、本人のホームページに掲載しています。
(<http://www.enomotokenji.com/pan.htm>)



相野谷小学校体育館



平野 美津子 議員

- ・新宮紀宝道路について
- ・防災拠点施設の活用について

— 新宮紀宝道路

議員

着工をされたということですが、このルートを発表していただきましたが、近辺の方々が毎日を不安な思いで送っておられます。それで今の進捗状況はどのようになっていますか。

企画調整課長

一般国道42号新宮紀宝道路の進捗状況でございます。実施主体であります国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所では、今後の設計を

行うための測量、地質調査を、本年8月から平成26年3月までの期間で、実施中であります。地質調査につきましては、鵜殿地内で6か所、成川地内で3か所、合計9か所でボーリング調査を予定しております。そのうち6か所につきましては、調査を終了しております。測量業務につきましては、地権者様との調整が整った箇所から順次、測量業務を行っております。なお、測量、地質調査の実施にあたりましては、7月25日に、対象地区である鵜殿地区と成川飯盛地区の全世帯を対象に、調査への協力をお願いする案内を回覧させていただいておりますが、作業期間が平成26年2月末から26年3月末に変更されたことに伴いまして、本年12月12日に再度、同地区に測量、地質調査への協力と作業期間の変更へのご協力をお願いする案内を回覧させていただきます。

今後のスケジュールにつきましては、本年6月3日、6月5日の住民説明会でも、紀南河川国道事務所から説明がありましたとおり、地質調査及び測量が終了し、予備設計が

できましたら、地元説明会を開催する予定であるとおつておるところでございます。

議員

その調査に私有地へ入る場合は、私有地の持ち主にきちんと、説明をし、許可を得て入っておりますか。

企画調整課長

私有地につきましては、それぞれ個人に、国土交通省のほうからお話をしたなかで進めていると聞いております。

議員

住民さんから調査をやっているの、「どうしたのか」と聞いたら国土交通省に頼まれていると、持ち主さんに許可を得ないで入られたという事実を、私は確認したんですけれども、そういったことについて、紀宝町からきちんとその田辺の事務所に問い合わせはされていますか。

企画調整課長

紀南河川国道事務所の方からは、そういった個人の土地に入られる場合は、きちんと説明をするなかで進めていくということをお聞きしております。今議員さんおっしゃられたような許可も得なくて、調査を行なっているというふう

なことは聞いておりません。もし、実際そういう例があるならば、後日、お名前も聞きながら、紀南河川国道事務所のほうに連絡させていただきたいと思えます。

議員

お答えいただいたように、私有地に入る場合は、弁護士さんにも聞いたんですけれども、違法行為なので、だめですわねというお話でしたので。今後、その対策について具体的に私も何人かに聞いて

ますので、そのなかで、まだ、その住民さんからの要望で自分の名前を明かしてもいいというふうなことになるれば、また役場を通して国交省のほうへ申し入れをしていただきたいと思います。本当に不安な状況のなかで、住民さんがその調査を見守っていますので、来年度に入ればそういう調査結果をまた住民の皆さんに公開していただけると理解してよろしいでしょうか。

企画調整課長

紀南河川国道事務所の方は、路線測量が終わって予備設計が終わった後再度、必ず地元の説明会が開催されると

言っております。

議員

それですね。その説明会を開催されて、住民さんの意見も聞かれると思いますが、その時住民さんの思いをきちんと国交省は受け止めていただけるでしょうか。決まっただからこうなんだと。こうするんだという説明では、住民の立場はないと思えますので、そのへんをたくさんの方々が心配されています。国についてのは力が強いから、権力を持つているから、もうだめなんじゃないかというふうな話もよく聞きます。そのへんのところを、国交省とよくお話をさせていただいてですね。役所として、やはり住民の意見についても入れていただくというふうなことにしたいんですが、その点いかがですか。

企画調整課長

住民の意見も含んだなかで進めていくものと思っております。

― 防災拠点施設の活用

(職員不在時の対応)

議員

防災拠点施設の活用について、私は前から、質問もしていますが、明確に答えていただいていない部分があります。例えば、明日の朝、1時にもし災害が起こったとしますね。そういったときに、この防災施設をどのように活用されるのか。例えば、12分で津波がくると、職員の皆さんがここに着く前に道路が全部遮断されてしまうと思いが、どのような対応をされようとしているのか。

特別参与

情報提供については、地震発生時にシステムで自動的に警報の発令状況について伝達できるのではないかと考えています。庁舎には、常時警備員(一人)を配置しております。職員不在時の対応マニュアルというのも整備させていただいております。

※その他に、高岡の輪中堤の対策について、自主防災について、救助法備

り上げ家屋打ち切り後の被災者の状況について、町営住宅の建設について、災害復興について、矢淵中学校の災害時の避難路についての質問がありました。



高垣 操男 議員

・防災減災対策について

― 防災減災対策

議員

2011年に災害があったから防災拠点施設、高岡防災センター、津本防災センターなど、3箇所作っていただき

ました。それで住民の方が一安心できたんじゃないかという思いもあります。それでも、まだまだ安心・安全で暮せる地域ではないと思えます。今、町内における橋の数いくつあるのですか。

産業建設課長

当町が管理しております橋梁につきましては、橋長15m以上の橋梁が26橋。15m未満の橋梁が109橋。合わせて135橋ございます。

議員

そのなかで早急に耐震補強しなければならぬ数は、どのくらいあるのですか。

産業建設課長

耐震補強をしなければならぬ橋梁数につきましては、一般的な考え方ではございますが、一径間の橋梁で平成8年度の道路橋示方書に基づき架橋されていない橋。ですから平成7年度以前に架けられた橋が落橋防止システム等が整備されていない橋ということでございます。当町が管理しております橋梁の約9割近くは耐震補強等が必要であるというふうに見込んでおります。

議員

人口も減少する上で、どんな使う橋と、また、そんなに使われない橋と、まばらになることもあると思うんですが。現在の工事の進捗状況はどのようになっていますか。

産業建設課長

現在の整備状況については、橋梁整備につきましては、平成17年度より、橋長15m以上の橋梁で、地域間を結ぶ主要幹線道路にかかる橋梁について、耐震補強工事を実施しているところでございます。平成24年度末時点で、北川橋・日高橋・石橋・里前橋・山瀬橋の5橋の耐震補強工事が完了しております。老朽化に伴う架け替え工事につきましても、井田地区の宇気津橋が、現在、完了いたしております。今、鵜殿地区の波静橋、桐原地区の小野橋の架け替え工事を進めているところでございます。

議員

飯盛と神内の境のところの三与太郎橋は、今の現状のままなんですか。

産業建設課長

橋長15m未満の橋ということで、今年度から橋のストック点検を実施してまいります。

す。そのなかで点検をやっていくということで計画をいたしております。

議員

点検といいますけれども、大体どのくらいかかるんですか。

産業建設課長

約1年間かけて町内135橋で整備が終わった橋梁全てをやっていく予定としております。

議員

1年間かけて、また、それから対策を練っていくということは、かなり日にちが経っていくんですけども。その他の橋に対して、今後の進め方、分かっている範囲で結構ですので、どのように進めていくか、よろしくお願いたします。

産業建設課長

今後の進め方につきましては、平成20年度、21年度よりは、平成20年度、21年度より橋長15m以上の26橋の橋梁全て、それから橋梁の老朽化に対応するため、橋梁の維持管理方法を従来の事後的な修繕、及び、架け替えに加えて、予防的な修繕、及び、長寿命化修繕計画に基づき、架け替えと円滑な政策転換を

促します。また橋梁の長寿命化及び橋梁の修繕架け替えに係る費用の縮減を図る橋梁長寿命化計画が、昨年度末に策定されており、今年度末に策定されており、今年度は井田・成川・神内地区で土砂災害が発生する恐れのある土地の状況等を調査すると伺っております。次年度以降実施していく予定となっております。

議員

急傾斜地危険箇所は大体、紀宝町で今、何箇所くらいあります。

産業建設課長

急傾斜地の現状につきましては、平成12年度に三重県において調査をしていただいております。調査では、高さ5m以上法面が30度以上の傾斜地が存在するところとしておりまして、町内では179箇所の法面が家屋に影響する急傾斜地危険箇所という事で指定されているところでございます。基準のなかでは、人家、公共施設、学校・病院、道路、それと鉄道等も含まれており、公共インフラ関係の大きなところで調査をいたしております。

議員

今後、町として具体的な策があればお願いいたします。

産業建設課長

今年度から、三重県が土砂災害防止法に基づきます基礎調査を実施するというふうに向っております。今年度は井田・成川・神内地区で土砂災害が発生する恐れのある土地の状況等を調査すると伺っております。次年度以降実施していく予定となっております。この土砂災害防止法では崩壊危険箇所をコンクリート等で固めていくには長大な時間と費用がかかります。そのため宅地開発等の時点で、その危険箇所での建築制限でありますとか、開発制限をかけていくというものでございます。その基礎調査を実施していく。そのなかで建てる場合、まず自分で、先に危険を取り除いていただくような対策をしていただくのが、法の趣旨でありますので、その調査にかかってまいります。

※その他に粗大ごみの扱いについての質問がありました。



矢熊 達雄 議員

・財政について

— 財政について

議員

地域振興基金が平成24年度末で10億9110万7千円ですが、内容について説明を。

総務担当理事

基金については、合併特例債に基づいて10億円を、18年度から22年度までの5年間で積み上げさせていただきまして、合併特例債による基金の取り崩しについては、総務省より18年に通知があり、その償還が終わった範囲内において、できるとなっています。

議員

合併特例債の償還の最終年度は。

総務担当理事

合併特例債の償還期間は、20年で、借入期限は10年間です。27年度で借入した場合、20年後となります。しかし、東日本大震災により、東日本地域における合併市町村の特例で、合併特例債の延長が可能になり、他の地域においても特例的に建設計画の見直しにより5年間くらいの延長が可能と聞いております。

議員

当町においても可能なか。

総務担当理事

可能です。当然、建設計画の見直し、そして議会の承認も必要となりますが、合併特例債については、充当率95%、交付税措置率70%という有利な起債ですので、借入を行って、新たなまちづくりに使わせていただきたいと考えています。

議員

財政調整基金16億5365万円は、町にとって取り崩しや、災害が起きた時、使える金額ではないかと思うが、先程の地域振興基金等も含め30

億623万円の基金を積み立てていることに対しては、西田町政の大きな功績ではないかと評価をしています。そこで町長に尋ねたい。今後の財政運営について、基金の積み上げをいくらまで積み上げるのか。今までの基金の積み立てについて町民の方に対して無理をさせたり、要望を、どこまで聞いているのか。

町長

合併当初は、財政調整基金が2億円でしたので、この金額については、どうしても解消をしなければならぬとの強い思いを持っていました。行財政改革ということ、町民の皆様方にも、職員にも、大変なご支援とご協力をいただきながら進めてまいりました。毎年2億から多いときには4億の、基金を造成することができました。12号台風時には、基金を取り崩させていただき予算化をしました。その結果1億円余しか基金が残りませんでした。今後、発生すると危惧されている南海トラフを震源とする、地震、津波の被害がどの程度になるかわかりませんが、今の倍近い金額を確保し

ていく必要があると思っ
ています。合併をして10年が経過
してくと交付税も減額をし
てきますので、どれだけ基金
に積み立てできるかわかりま
せんが、できる限り目的に向
かって進めさせていただき
たいと思っております。

議員

今の基金の倍程度あれば想
定されています南海トラフを
震源とする災害にも、町財政
としては賄っていけると、私
は受け止めたが。23年12号台
風災害の収支は25年度の決算
で出てくるのか。

総務担当理事

発生しました23年度から、
災害復旧工事が終わると思わ
れる25年度までの分を総括す
る必要があると考えておりま
す。

議員

町長の諸報告によると本年
12月で災害工事については完
了する。県においても25年度
でほぼ完了するとの報告があ
ったが、25年度の決算におい
て12号台風による収支が明ら
かになるが、見通しとして基
金の取り崩し等を含め基金残
高は。

総務担当理事

年度末として全体的な30億
という金額は変わらないもの
と考えています。

議員

23年9月に、12号台風災害
で未曾有の被害を被ったわけ
ですが、町長の政治手腕もあ
るのでしようが、今の総務担
当理事の決算見込みを聞きま
すと、先程の町長の答弁では
基金について、今の倍ぐらい
の基金が必要との考え方を述
べたが。基金というのは貯め
られるものならば貯めた方が
いい、それは家庭にとっても
そうでしょうか、生活も楽に
なる。安心もできる。しかし、
行政は違うんじゃないかと町
民あつての行政。住民の方の
期待に応えるべく予算の使い
方をするべきではないか。

町長

各地からの要望について
は、しっかりと対応させてい
ただきたいという思いを持っ
て進めております。要望に対
して全て基金を取り崩して応
えていくのは、財政上、非常
に難しい問題だろうと思いま
す。私としては、補助金とか
交付税措置のある有利な起債
を精一杯活用しながら、地域
の皆様にお応えしていきたい

と思っております。

議員

合併をして10年後には交付
税も少なくなる。町の人口減
による税収減もあると思いま
す。将来を見据えた財政運営
と感じました。しかし、町と
してやらなければいけないこ
とは、半分を負担しても75%
を負担してもやらなければな
らないと思うが。

町長

やらなければならぬ分には
ついては、無理をしてもし
っかりと対応していくのが一
番大事だと思います。町民の
皆様の生命、財産を脅かすよ
うな緊急的な事は当然です。

議員

これからは、町にとつても
国にとつても大変な時代が来
るなかで、当地域には、今よ
うやく高規格道路の計画が進
み、基盤整備、インフラ整備
をしていかなければならぬ
と思う。使わなければならぬ
ときは使おう。その気構え
を持って基金全体の運営にあ
たっていただきたい。今後、
相反することだが町民の皆様
にもよく理解していただくよ
うに。

町長

これからの社会状況、災害
の状況は分かりませんで、
しっかりと対応することが町
民の皆様の安全、安心、命を

守ることに基金が繋がって
くのではと考えています。

本議会を傍聴してみませんか。



(平成25年第4回定例会 議会状況)

本会議では、町民の皆様の生活に関わる重要な問題について、熱い議論が交わされています。町政への理解を深めていただくためにも、皆様の傍聴をお待ちしております。

■本会議の傍聴

本会議の議事の公開の原則により、会議中どなたでも傍聴できます。

■傍聴の手続き

- 1：役場本庁舎3階の議会事務局で受付を行ってください。
先着順により受け付けています。傍聴席の定員は40席です。
- 2：議場の入退室は、会議中でも自由にできます。

■ご注意

言論に対して拍手、その他の方法により可否を表明しないでください。飲食または喫煙をしないでください。携帯電話の電源はお切りください。写真、ビデオで撮影したり、録音しないでください。

- お問い合わせは紀宝町議会事務局まで (☎0735-33-0342)

平成 25 年度 議員研修 東日本大震災（釜石市・大槌町）

メディアでは知ることができない現状・現地の声を、自分達の目と耳で
直接触れるために議員研修を行ってまいりました



釜石市鵜住居地区防災センター内

■ 目 録

平成25年11月25日～27日

■ 参加者

議員 11名 事務局3名

■ 研修視察場所

釜石市役所及び市内
大槌町役場及び町内

■ 目 的

紀宝町においても、南海トラフを震源とする巨大地震の発生が高い確率で懸念される状況から、平成二十三年三月十一日発生の「東日本大震災」における被災状況二年八ヶ月を経過した現在の復旧状況及び課題等を学ぶことを目的に十一月二十六日に被災地の釜石市・大槌町を訪問し行政視察研修を行った。

議員行政 視察研修報告

釜石市役所では、海老原議長から「釜石の概要」その後、釜石市役所猪又防災係長から「東日本大震災における釜石市の災害対応」について説明を頂きました。最初に議長からは、釜石市にも紀州造林があり紀宝町とはご縁があるものと捉えているとの言葉を頂き、概要については、市の地形の九割が山林・一割が平地である釜石には鉄鉱石があり製鉄業が発展した歴史があるということでした。江戸時代（一八五七年）に西洋式炉が完成、それ以降、鉄鋼不況まで栄えた市であり、人口は明治時期三千人程度、最盛期の昭和三十年代は、住民登録者

九万二千人、他に新日鉄関係の労働者があり、十一万人程度でした。現在人口が、三万七千人、五十年間で五万人が減少。他の産業が漁業で、最盛期の昭和六十年代では、北洋さけ・ます漁で年間水揚げが百億円を超えていた。近年、は三十億円前後に減少、現在は、製鉄業・漁業に代わる産業として、自然循環型の社会の構築を目指しエコタウンの認証を受け、サブプライメントの製造・リサイクル事業・風力発電等大規模な事業を展開している。その最中に震災に遭った。議会は、三月議会の一般質問中で地震発生と同時に屋上に避難、屋上から様子を伺っていた。当日は、庁舎に全議員が宿泊し翌日各々帰宅。議会は十二月議会で「復興つくり計画」を認定し、現在様々な事業を進めているが具体的には、これか

らという状況との説明をいただきました。次に猪又防災係長の説明で、人口は、震災前の二三年二月で約四万人、震災後は三万七千人と三千人減少。地形はリアス式海岸で津波は早い所で三十分程度、遅い所では四二～三分で押し寄せた。釜石湾で九・二メートルを計測、他の場所では遡上高二〇メートルを超える所もあった。釜石の地震・津波の歴史は、今回の震災を含め明治以降三回の大きな地震津波があったということで、明治の三陸地震では、大きな被害受けこれを教訓として石碑を立て、昭和三陸地震では、人口三万二千人に対して犠牲者が四百人と少なかった。このことは明治の教訓が生かされた結果であった。しかし今回の震災では、昭和二十年米軍の



■釜石市 鵜住居地区防災センター
 ここへ逃げた多くの人々が津波で流されました。



■津波が来たときに、2階の天井のバトンに掴まった人のみが助かったそうです。



■屋上へ逃れた人は助かったそうですが、とても登りにくかったようです。



■津波の来た状況など、詳細に説明をしていただきました。

空爆により町中が焼け野原となり、以降は教訓が生かされず低地に住宅・工場が建てられ大きな被害となった。市の防災アドバイザーの群馬大学片田教授は「なかなか人間はその事象でもって逃げられない、昔のテレビ・ラジオも無い時代には、その事象によっていち早く避難行動を取る。今の人間は大きな揺れを感じても情報が無ければ避難しない状況がある」と指摘をしている。この後の津波の状況・被害の状況等については、皆様新聞・テレビ等で見聞きしている通りなので省略させていただきます。次に釜石で最大の被害を受けた、郊外の鵜住居地区・この地区には「釜石の奇跡」と言われた小中学校もあり、この地区の状況について記載させていただきます。人的被害は一千名を超え、その六割がこの地区。建物は七割が被災し、その内六割が全壊。この地区も津波避難場所を高台に設置していたが、街の真ん中に公共施設の「鵜住居地区防災センター」があり、ここで六九遺体を収容。ただ何百人の方が避難されていたかは不明で、

今も当時の状況がわからないう。なぜ大勢の方が被害に遭ったのか今も検証している。このセンターは震災二年前に完成した。海抜は四メートル。海岸から一キロ離れた場所にある。この地区は防災意識が一番高い地区で震災前にも自主防災会合同で訓練もしていました。明治震災の時の津波は膝下までの状況であり避難場所に避難しなくても、二階に居れば大丈夫との意識がはたらき多くの方が犠牲となったと思われる。災害からいかに命を守ってもらうか、人的被害ゼロが最大の目標であるが、いくら役所が旗を振っても達成するものではないというのが教訓です。次に「釜石の奇跡」について。マスコミ等では奇跡・奇跡と報道されているが、地域では奇跡という言葉は一切使わないようにしている。言葉のイメージの背景には、一千名以上の犠牲があり、奇跡だ奇跡だと大喜びする状況ではないとの話を頂きました。「学校教育」では、有事の際には子ども達又保護者の行動についてもいろいろなことが考えられ、これらを検証し、今年三

月に教育長から各学校にマニュアル作成時は、次のことに留意するよう通達されております。内容は「津波注意報・警報及び大津波警報が発表された時に、保護者は学校に児童を迎えに来ないものとする」・「あわせて津波注意報・警報及び大津波警報が発表された時は、保護者は家で待機することなく、指定避難場所など高台に直ちに避難する」・「学校から避難するときには、児童生徒全員の避難とともに、全教職員も避難する」・「今後行う避難訓練は、学校だけでなく、地域や保護者とともに実施する」・「避難訓練を行う時は、児童、生徒及び教職員の全員が絶対に助かるのだという強い意志を持ち、訓練に真剣に取り組む」以上が通達内容です。最後に片田教授の避難指導の三原則ということで、

- ① 想定を信じるな
- ② どんな時でも最善を尽す
- ③ 率先避難者になる



大槌町議会



■大槌町役場前の祭壇に手を合わせさせていただきました。



■大槌町役場 当時のまま庁舎の時計は止まったままです。

わかります。

午後は、隣町の大槌町を訪れ、大槌町議会・阿部議長の歓迎挨拶、その後、総務部・平野部長から説明を受けました。最初に平野氏からは、自らの経験、又行政マンとしての対応についてお話をすると、いうことで始まりましたが、紙面にも限りがありますので多くの悲惨な話は省略をさせていただきます。震災から二年八ヶ月が経ち、今年が一番辛いのが本音で、職員を亡くしたつげは大きいと考えている。話は町民を支援する側の職員は、どうだったという事をぜひお話ししたいとのこと、人口は震災前で一万六千人、今は一万二千人で町外避難者を考えると一万人そこそこだと思う。減少率は二十パーセント程度減少している。職員数は百三十六名、その中で亡くなった職員は三十三名で自身は生き残ってしまつた一人と考えている。地震発生時には、役場前で災害対策をしていた。そこへ津波が来た。役場内には五十人、その内二十八人が亡くなりました。多くの仲間を亡くした

状況の中、役場職員として何かしなくてはならない思いだけで生き残つた職員は一生懸命やつた。被災から三ヶ月は家に帰れなかつた。家族の状況もわからない。私の安否さえ報告できない状況で、ずっと対策に追われる状態であつた。同僚達は家を失い、殆どが家族を亡くしていたが、一生懸命自分の事は顧みず働いた。その中、遺体処理をしていた若い職員が自殺、五月には一人が辞め、その後も何人も辞める又は心の病気になるという状況であつた。職員は家族を失つた状況の中でもニコニコする様に一生懸命働いている異常な状態であつた。部課長会議では、三十人の部課長の内派遣が二十人で職員が十人です。このような厳しい状態に大槌町があることをぜひご承知おきしていただきたい。町長も亡くなり、職務代理者に副町長がなりましたが、六月二十日で任期切れで辞め、首長の選挙が延びているのに何故との思いでしたが、総務省は断固として副町長の任期延伸できないの一点張り、職務代理者は総務課長が務めることになった。や



■大槌町役場OB 佐々木さん
現地視察に同行していただきました。



■現在の大槌町役場は小学校を改修して使用しております。



■大槌町役場での研修



■大槌町には「ひょっこりひょうたん島」のモデルになった「蓬萊島」があります。



■復興の進まぬ現状

はり支援する側の命を守ることも大事なことだと思えます。議員の方々も支援する側ですので、役場の職員共々命を守って、その後の復旧・復興に尽力することが一番大切なことだと思えます。現在事業は着々と進んでいます。区画整理・高台移転等々進んでおりますが、それを進めるエンジンとなる役場職員のケアが一番大切だと思います。なにをするにも職員が元気でその家族が元気でない限り復旧復興はありえないと思えます。自分達の町を何十年・何百年と続けるには、役場職員、地元の方々が本気になって町づくりをするということが一番大切ではないかと思っております。紀宝町におかれましては地震・津波という事でいろいろ検討されていると思いますが、とにかく命を守る一点でしっかりと色んな事を考えていただきたいと思えます。多くの説明を省略させていただきますましたが、平野部長の説明内容の報告といたします。今回の研修では、研修地までが遠く日程的には非常に厳しい研修となりましたが、両市町では、今まで報道

等では、知りえなかった震災で起きた多くの出来事の詳細、又悲惨な実情も聞くことができ、あらためて人の命を守る大切さやいろいろな教訓を学ぶことができ大変有意義な研修であったと思えます。最後になりましたが、あらためて震災で犠牲になられた多くの方々のご冥福をお祈りするとともに、釜石市・大槌町の早期の復旧・復興をお祈り致します。復旧・復興の最中紀宝町議員研修に大変貴重なお時間ご協力を頂きました両市町の議長様をはじめ、説明頂きました職員の方、大槌町役場職員OBの佐々木様には厚く御礼を申し上げます。

(文章：総務産業常任委員会
委員長 大前 森重)

※背景の画像は2011年6月、東日本大震災（陸前高田市）です。

■次回定例会の予定

3月5日（水）開会予定です。
傍聴は議会事務局で受付ています。

■議会生中継について

公共施設5ヶ所のロビー等において、町議会本会議の様を生中継していますので、議会日程をご確認のうえ、ぜひご覧ください。

- ① 役場本庁舎
 - ② 生涯学習センターまなびの郷
 - ③ 福祉センター（鶉殿）
 - ④ 保健センター（神内）
 - ⑤ 相野谷診療所
- ※放映時間については、当該施設開館時間内となりますので、ご了承ください。

■インターネット録画中継について

町議会では開かれた議会を目指して、平成23年6月定例会分からインターネットによる録画中継を実施しております。映像をご覧頂くには、
◎紀宝町ホームページ↓「町議会情報」↓
「インターネット議会中継」をクリック

可決された議案（12月）

- 公平委員会委員の選任
・公平委員に山田十司さん（井田）の選任に同意しました。
- 紀宝町消防団条例の一部改正
- 紀宝町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部改正
- 紀宝町税条例の一部改正
- 紀宝町国民健康保険税条例の一部改正
- 紀宝町半島振興対策実施地域における固定資産税の特例措置に関する条例の一部改正
- 紀宝町後期高齢者医療に関する条例の一部改正
- 辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更
- 紀宝町道路線の認定
- 紀宝町高岡防災センター条例の制定
- 平成25年度一般会計補正予算（第3号）
- 平成25年度特別会計補正予算（5会計）
- 人権擁護委員の推薦につき意見を求めること
・人権擁護委員に有城安子さん（井内）を推薦することに同意しました。
- 紀宝町議会議員の定数を定める条例の一部改正

意見書（12月）

- 消費税の軽減税率制度の導入を求める意見書

編集後記

二〇二一年三月十一日の東日本大震災から三年が経とうとしている。昨年十一月、議員視察で、釜石市・大槌町を訪れた。私も二十五年位前、当地で十年過ごしたが、見る影もなく荒廃していた。友人の話によると、過去が一瞬にしてなくなったと言っていた。十二月の議会においても、東日本大震災から学ぶべきこと等についての防災関係の議論がなされていた。人が死なない防災・いざというときには、まず自分が率先して避難することの大切さを、視察で痛感した。紀宝町の防災対策として、防災拠点施設（津波避難ビル）高岡防災センター等が建設され、又、中熊登町と二十四年に、災害時相互応援協定、二十五年に姉妹町提携がされた。今後は災害を教訓に、行政と住民が一体となった、防災、減災の取り組みの強化の必要性を感じました。（文責 市川 潔）

「議会だより」（第29号）

編集委員

市川 潔

大石 洋

榎本 健治